

中川法一(編)

「セラピスト教育のためのクリニカル・クラークシップのすすめ」

木村貞治

信州大学医学部保健学科理学療法学専攻

理学療法士、作業療法士の卒前教育においては、養成校における学内教育と臨床現場における臨床実習との一貫した教育体制によって、学生の情意領域、認知領域、そして、精神運動領域の能力を高めていくことが重要となる。しかし、現在、理学療法、作業療法の臨床実習は、量と質の両面において様々な問題に直面している。量的な問題としては、養成校の急増に対してそれに対応できる臨床実習施設や臨床実習指導者が不足していることや、診療報酬制度の改定に伴い学生指導に割ける時間が減少していることなどが挙げられる。また、質的な問題としては、コアカリキュラムが未整備であることにより臨床実習開始前までの教育内容に関する養成校間格差があること、臨床実習における標準的な教育モデルの構築が不十分であるため、臨床実習施設や臨床実習指導者による教育能力の差が大きいこと、そして、従来行われてきた患者担当制では、臨床体験頻度が限られるとともに、積み上げ式教育によって、評価が終了しないと治療的介入に進めないという状況に陥る場合があることなどが挙げられる。

理学療法・作業療法における臨床実習が直面しているこのような状況に対するブレイクスルーとして、診療参加型の臨床実習方法である「クリニカル・クラークシップ」が注目されている。しかし、実際の臨床実

習においてクリニカル・クラークシップをどのように導入し、どのように進めていけば良いのかという点については十分に理解されていないのが現状ではないかと思われる。

本書「セラピスト教育のためのクリニカル・クラークシップのすすめ」は、まさに理学療法・作業療法の臨床実習指導におけるクリニカル・クラークシップの理念から実際までの情報を系統的に理解することができる1冊となっている。内容としては、臨床実習が直面している問題、クリニカル・クラークシップの概要、クリニカル・クラークシップの有益性、妥当性、教育学的効果、そして、理学療法学科や作業療法学科の学生を対象とした実際の実践モデルについて、丁寧に、そして、具体的に述べられている。また、付録には、クリニカル・クラークシップを展開する上で重要となる臨床体験に関する項目別のチェックリストが示されている。

「百聞は一見に如かず」。理学療法学科・作業療法学科の学生が、実際の臨床現場で、見て、真似て、触れて、考えることによって、実践的な臨床能力を高めるための具体的な方略として、クリニカル・クラークシップは非常に重要な役割を担うことになる。

豊富な臨床経験と教育経験を有する方々が、教育の本質を見据えて、そして、学生に対する温かい視点を持って執筆された本書が、新しい臨床実習指導モデルの潮流を創出することを期待したい。

●B5判 190頁

定価 3,570 円(本体 3,400 円+税 5%)

2007 年 三輪書店・刊